

受注激減、マスクに活路

三島の授産所

素材を調達、企業も協力

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い授産施設の受注が激減する中、運営する三島市の特定NPO法人「にじのかげ橋」はマスクを手作りして16日から販売を開始する。バザーなどで余った布を裁断、縫製し、従来からの取引企業などの協力も受けて仕上げる。鈴木俊昭理事長は「苦しい状況が続くが、今できることを続けたい」と語る。

手作り布製あすから販売

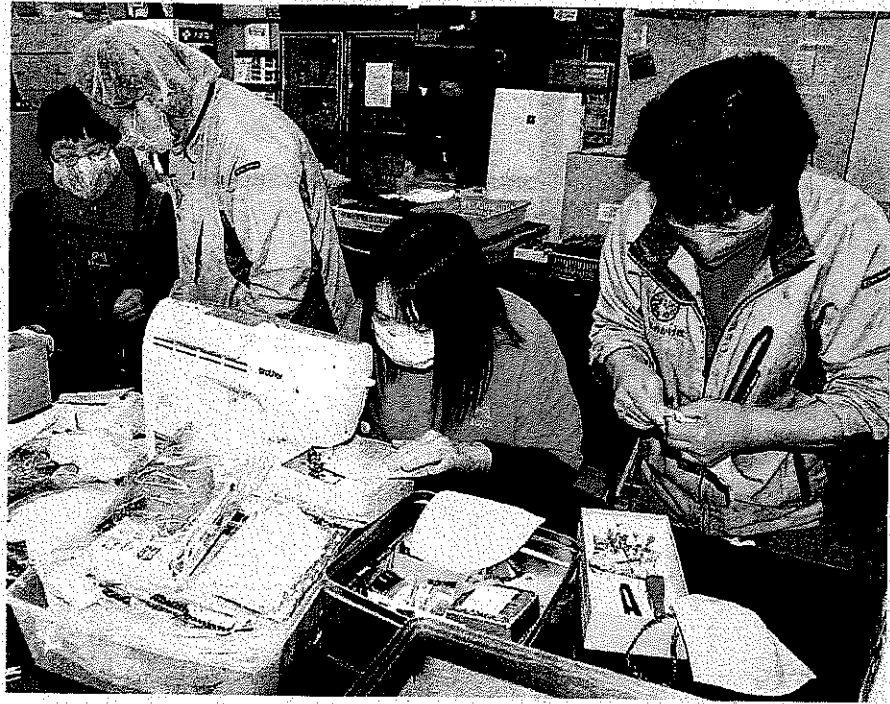
手作りマスクは、バザーの際に市民から寄せられた布を型に沿って裁断し、ミシンで縫い合わせる。目の粗さが弱点となる布マスクの内側にポケットを付け、中に抗菌用のティッシュを入れて気密性を高めた。

耳にかけるゴムひもは100円ショップなどで購入して集め、受注が8割落ち込んだ3事業所の障害者が1日50〜60個のマスクを作っている。

抗菌用ティッシュはトイレで流せる使い捨てタイプで、用意したのは雑紙のリサイクル業「コアレックス信栄」(富士市)。同NPOとは以前から作業を依頼する付き合いがあり、「何か役に立てないか」と協力した。三島市の「山本ミシン商会」も縫製の指導に当たり、マスク作りをサポートしている。

手作りマスクは16日から同市芝本町の「ストウエイクマート」、函南町の道の駅「ゲートウェイ函南」で販売する。大人、子ども用の2種類を用意し、価格は1枚500円から。注文も受け付ける予定。

問い合わせは同NPO
 ○電話0555(0)41-8278へ。
 (三島支局・金野真代)



マスク作りに取り組む障害者
 14日午後、三島市「にじのかげ橋」

受注激減、マスクに活路

三島の授産所

素材を調達、企業も協力

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い授産施設の受注が激減する中、運営する三島市の特定NPO法人「にじのかけ橋」はマスクを手作りして16日から販売を開始する。バザーなどで余った布を裁断、縫製し、従来からの取引企業などの協力も受けて仕上げる。鈴木俊昭理事長は「苦しい状況が続くが、今できることを続けたい」と語る。

手作り布製あすから販売

手作りマスクは、バザーの際に市民から寄せられた布を型に沿って裁断し、ミシンで縫い合わせる。目の粗さが弱点となる布マスクの内側にポケットを付け、中に抗菌用のティッシュを入れて気密性を高めた。

耳にかけるゴムひもは100円ショップなどで購入して集め、受注が8割落ち込んだ3事業所の障害者が1日50〜60個のマスクを作っている。

抗菌用ティッシュはトイレで流せる使い捨てタイプで、用意したのは雑紙のリサイクル業「コアレックス信栄」（富士市）。同NPOとは以前から作業を依頼する付き合いがあり、「何か役に立てないか」と協力した。三島市の「山本ミシン商会」も縫製の指導に当たり、マスク作りをサポートしている。

手作りマスクは16日から同市芝本町のスーパー「エッグマート」、函南町の道の駅「ゲートウェイ函南」で販売する。大人、子ども用の2種類を用意し、価格は1枚500円から。注文も受け付ける予定。

問い合わせは同NPO
〇八電0555(941)
8278へ。
(三島支局・金野真)

